

高雄中だより

令和3年1月5日

京都市立高雄中学校

なかま 夢 成長

未来を創造したくましく生き抜く力の育成



謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年世界中を襲ったコロナ禍ですが、新年を迎えた今もその収束はまだまだ見えず、残念ながら三度目の猛威をふるおうとしています。まさに国難とも言える厳しい状況が依然として続いています。



歴史の中でかつて国難を乗り越えた際に大切だと考えられたことは何か？いくつかの資料に目を通しました。するとそのヒントとして、幕末の水戸藩士で儒学者の藤田東湖の言葉がありました。「国難襲来す 国家の大事といえども深憂するに足らず 深憂すべきは人心の正気の足らざるにあり」

※「正気」：気力、気迫のこと

これはペリーの黒船来航から開国要求により国中が揺れ動いた幕末時代に東湖が弟子に示した言葉です。黒船の到来・開国要求は確かに国家の大事だが、じたばたすることはない。本当に心配すべきは、人心にこれを乗り越えようとする気力気迫が欠けることだと、東湖は弟子たちに諭したのです。まさに人心の正気こそが今大切だと！

連日の報道でコロナ禍の厳しい状況が伝えられています。私たちが不安になるのは当然です。しかし、この一年でわかったこともあります。三密を回避することを主とした新しい生活様式を徹底すれば、感染のリスクをかなり抑えられるということです。過度に反応するのではなく、正しく恐れる。With コロナの生活が続くなかでもそれぞれの夢や願いの実現に向けて着実に努力を進めていきましょう。そして今年には高雄中学校最終年です。生徒の思い出に残る有終を迎えるべく、教職員一丸となって教育活動を進めていく所存です。ご協力ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



◆七草粥

1月7日は「七草粥」の日ですが、「人日(じんじつ)」の節句といって、五節句(1/7 人日 3/3 桃 5/5 菖蒲 7/7 笹 9/9 菊)の一つです。古代の中国では、奇数(陽)の重なる日はめでたい日とされてきましたが、陰(偶数)に転じやすいので邪気を祓う行事が五節句として行われてきました。こうした中国の風習が日本に伝わり、当時は貴族社会で行われてきましたが、江戸時代には庶民まで広がり式日(現在の祝日)として制定されていました。でも、明治になって旧暦とともに五節句も廃止されましたが、今でも私たちのくらしの中に息づいています。



ところで、なぜ1月7日なのでしょう？中国の前漢の時代(約2200年前)の占い書に正月1日に鶏を、2日に狗、3日に羊、4日に猪、5日に牛、6日に馬、7日に人、8日に穀物を占って晴天ならば吉、雨天なら凶の兆しありとされていたそうです。そこで7日の「人の日」には邪気を祓うために「七草粥」を食べて一年の無事を祈ったものとされています。

この七草粥に入れる野菜(セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、ススシロ)は旧暦とはいえ若菜を摘むには寒い季節です。「古今和歌集」には「きみがため 春の野にいでて 若菜つむ わが衣手に 雪はふりつつ」と詠われ、大切な人のために寒い中を労力と手間を惜しまない気持ちと、それでもやる大切な行事であったことがわかります。七草は生薬としても重宝され正月疲れした胃を癒やしてくれる食べ物として重宝されています。7日は丁度一週目です。ここまででしっかり心身のリズムを整え、人心の正気をもってこの一年を充実したものにしていきたいでしょう。

※今年の旧暦1月7日は新暦では令和3年2月18日(木)雨水だそうです。